

# 事務事業名 殿台下町線道路改良事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:01 道路網の整備・充実

基本事業:01 幹線道路の整備と維持管理

部名:都市建設部

課名:土木課

計画年度	平成21年度 ~ 平成25年度		事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民、市道殿台下町線			平成21年度に国庫補助の要望を行い、22年度より本格的に事業（道路・橋りょう整備）を実施する。 道路の概要（現状） 山武市殿台地先～山武市成東地先 延長520メートル 幅員6m				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			平成21年度 路線測量業務委託 2,121,000円 橋梁詳細設計業務委託 5,250,000円 設計支援業務委託 1,564,500円				
道路利用者の安全性を確保し、利便性を向上させる。							
4 活動指標・成果指標・事業費の推移							
区分	指標名称		単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	年度当たりの市道殿台下町線道路改良延長		m	-	0	0	250
活動指標	年度当たりの(仮称)中原田橋りょう整備率(事業費ベース)		%	-	0	41	100
成果指標	市道殿台下町線道路改良済延長		m	-	0	0	520
成果指標							
事業費			千円	0	8,936	83,439	
			うち一般財源	千円	0	8,936	2,239
5 目的妥当性							
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い			市道を整備し利用者の安全や利便性を高めることは、道路管理者の責務であり、市の事業として実施することは妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度							
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業			幹線道路（橋りょう新設）を整備することは、道路の安全性や利便性を高めることとなるため、基本事業への貢献度は大きい。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討							
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他			本事業は幹線道路の安全性・利便性の向上を図るための事業であり、対象や意図を見直すことはできない。				
8 有効性（成果状況）							
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない			成果指標はあがっていないが、事業は進捗しているため、成果はあがっている。 平成22年度から本工事に着手することから、成果向上の余地は大きい。				
9 有効性（成果向上余地）							
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し							
10 事業の再編成							
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない			近接路線や同様事業はない。				
11 効率性（コスト削減の方法）							
ある ない			工事の実施にあたっては、国の補助事業を活用し、施工方法については、比較検討のうえ決定するなど、コスト削減に努めて実施しているため、コスト削減余地はない。				